

開催概要

展覧会名 **終わりのむこうへ：廃墟の美術史**
BEYOND THE END: RUINS IN ART HISTORY

会 期 **2018 年 12 月 8 日（土）－ 2019 年 1 月 31 日（木）**

開館時間 午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）
※毎週金曜は午後 8 時閉館（入館は午後 7 時 30 分まで）

休館日 12 月 10 日（月）、17 日（月）、25 日（火）、12 月 29 日（土）～1 月 3 日（木）、
1 月 7 日（月）、15 日（火）、21 日（月）、28 日（月）

入館料 一般 500（400）円 大学生 400（320）円 高校生 250（200）円
小中学生 100（80 円） 60 歳以上 250（200）円
※（ ）は、団体 10 名以上及び渋谷区民の入館料
※土・日曜日、祝休日は小中学生無料
※毎週金曜日は渋谷区民無料 ※障がい者及び付添の方 1 名は無料

主 催 渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

会 場 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

電話：03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>

〔交通案内〕 京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5 分

JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩 15 分

※駐車場はございません



お問い合わせ 渋谷区立松濤美術館（広報担当：吉井・西 展覧会担当：平泉・西）

※広報に関するお問い合わせ

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366 E-mail：info@shoto-museum.jp

★広報用画像もご用意しております。このプレスリリース掲載の広報用画像 A～J 以外も応相談。

○画像をご希望の場合は、作品名の前にあるアルファベットをお知らせください。

○画像の使用は、本展をご紹介いただける場合のみとさせていただきます。

○画像のご利用後、データは破棄してください。

○基本情報確認のため、一度校正をお送りください。

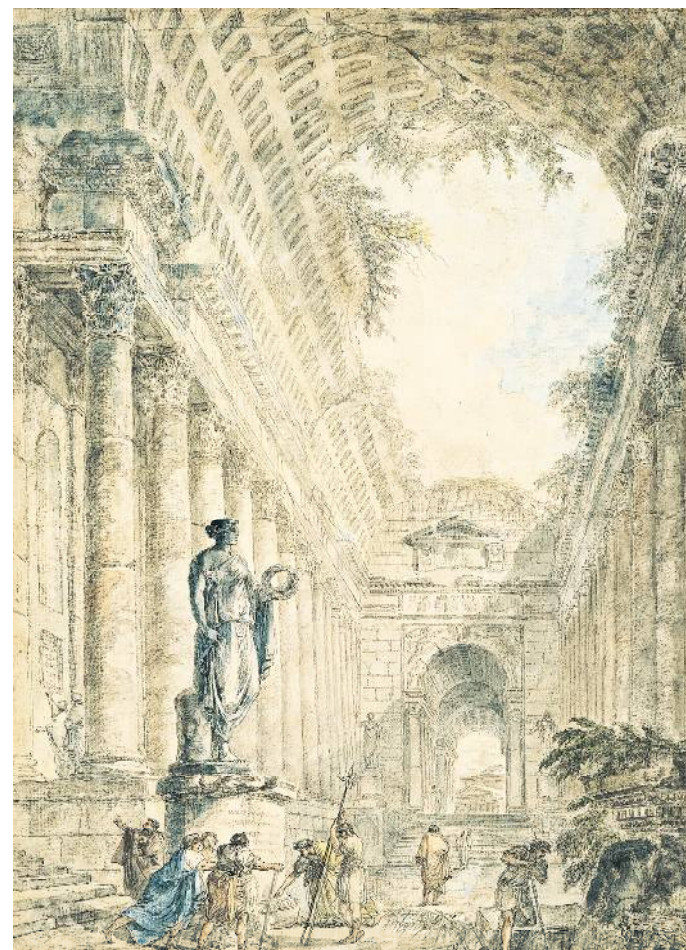
○掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。

2019 松濤美術館公募展（～2 月 24 日）
次回展のご案内 サロン展 南薫造展、（同時開催）山口草四朗展

前期：2019 年 2 月 10 日（日）～ 24 日（日）
後期：2019 年 3 月 2 日（土）～ 17 日（日）

終わりのむこうへ：廃墟の美術史

BEYOND THE END: RUINS IN ART HISTORY



ユベール・ロベール《ローマのパンテオンのある建築的奇想画》 1763 年 ペン・水彩、紙 ヤマザキマザック美術館

栄華や文明の痕跡を残しながら崩れ落ちようとする建造物や遺跡。「廃墟」は西洋美術のなかで、風景画の一角にくりかえし描かれていました。興味深いことに 18 世紀から 19 世紀にかけていわゆる廃墟趣味が流行すると、「廃墟」は絵画の主役の地位を確立していきます。「廃墟」を愛でること、描くこと—この美学は、近代に日本の美術のなかにも伝播しました。廃墟の画家として名を馳せた 18 世紀のユベール・ロベール、版画家ピラネージから、19 世紀のコンスタブル、20 世紀のアンリ・ルソー、マグリット、デルヴォー、そして江戸時代から日本の近現代の画家たち、亜欧堂田善、藤島武二、岡鹿之助、元田久治、大岩オスカル、野又穫まで、廃墟の主題は描き継がれているのです。

なぜ人々は、流れる時間のなかで滅びた、またはいつか滅びてしまう、遠い昔のあるいは遠い未来の光景に、惹きつけられるのでしょうか。この展覧会では、西洋古典から現代日本までの廃墟・遺跡・都市をテーマとした作品を集め、これら「廃墟の美術史」をたどります。

廃墟ブームは400年前から？



A. ヨハネス・ライシャー 1660 年以前 《古城》 エッチング 静岡県立美術館



B. シャルル・コルネリス・ド・ホー 《廃墟の風景と人物》 17 世紀 油彩、板 東京富士美術館 © 東京富士美術館イメージアークイブ /DNPartcom

昨今は「廃墟ブーム」といわれ、廃墟となった場所の見学に出かける若者たちも後をたちません。

ですが実は、人影が絶え崩壊しかけた古代の遺跡・建物など「廃墟 (Ruins)」を描くことは、西洋美術史のなかでは遙か昔から行なわれてきたのです。

本展で一番古い作品は、なんと 17 世紀のもの。当時から、廃墟の絵で名を馳せていたオランダのシャルル・コルネリス・ド・ホーなどの希少な作品も出展されます。

「廃墟の画家」たちの登場



C. ユベール・ロベール 《ローマのパンテオンのある建築的奇想図》 1763 年 ペン・水彩、紙 ヤマザキマザック美術館
D. ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《古代アッピア街道とアルデアティーナ街道の交差点》『ローマの古代遺跡』より 1756 年刊 町田市立国際版画美術館



18 世紀には「廃墟」の主題を生涯をかけて追い求める画家たちも登場します。「廃墟のロベール」といわれたフランスのユベール・ロベール、イタリアの版画家ピラネージらによる、現実と空想の入り混じるその雄大な風景をご覧ください。

「廃墟」の美学、日本にも伝わる？



E



G



F

いっぽうで日本の美術史のなかでは、あえて「廃墟」を描いたり、愛でる、といった習慣はほとんどありませんでした。

ところが、江戸時代から西洋美術に接触するなかで、「廃墟の美学」は、ひそやかに日本の美術のなかに忍び込んでくるのです。

例えば、西洋では 18 世紀から 19 世紀に廃墟趣味が興隆しますが、その同時代の輸入銅版画に基づいて制作されたために、ローマの古代遺跡が数多く登場する江戸時代後期の浮世絵、銅版画など、珍妙な世界が展開されます。

また、明治時代以降、海外に出た日本人画家たちは、廃墟というものが「絵になる」ことに気づきます。そして、自身の目で見えた廃墟、遺跡、古城などを主題として選びとり、洋画や日本画で描いていくことになります。

シュールな「廃墟」たち

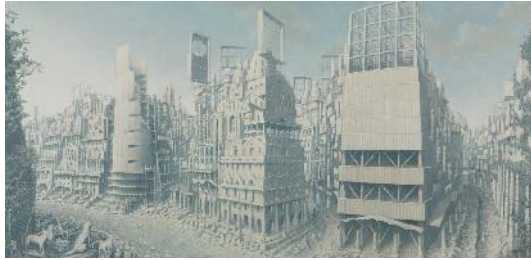


I. 野又 獲 《交差点で待つ間に -Listen to the Tales-》 2013 年 アクリル、カンヴァス
J. 元田久治の『Indication: Shibuya Center Town』。2005年。リトグラフ。



H. 樽松正利 《夢》 1940 年 油彩、カンヴァス 麻布区立美術館

遠い未来の「廃墟」を描き出す画家たち



I

I. 野又 獲 《交差点で待つ間に -Listen to the Tales-》 2013 年 アクリル、カンヴァス
J. 元田久治の『Indication: Shibuya Center Town』 2005 年 リトグラフ

そして現代、作家たちは未来の「廃墟」をも描き出すようになりました。「今」はかならず「過去」になる、その先を見据える彼らの目を通して、どんな光景が見えてくるでしょう。本展が開催される渋谷に、想像上の廃墟を重ねあわせる元田久治、また展覧会にあわせ「終わりのむこう」を描き出す野又獲の新作などに、ぜひご注目ください。



J

関連イベント

- 【1】 記念講演会 『廃墟の美学』 講師:谷川渥氏(美術学者)**
12月8日(土) 午後2時～3時(開場:午後1時30分) 定員80名
- 【2】 土曜午後3時のアーティストトーク**
1月12日(土) 元田久治氏(出版作家、武蔵野美術大学准教授) 『遠い未来はいつか遠い過去になる』
1月19日(土) 野又獲氏(出版作家、女子美術大学教授) 『イマジン Imagine』
各日共に午後3時～4時(開場:午後2時30分) 定員80名
※午後2時30分より1階ロビーにて整理券配布
- 【3】 特別講座『渋谷と廃墟』**
1月26日(土) 担当学芸員:平泉千枝 午後2時～3時(開場:午後1時30分) 定員80名
- 【4】 ミュージアムコンサート 木管三重奏トリオいろいろ**
出演:石神智子(オーボエ)、埴内紀子(ファゴット)、飯田真弓(クラリネット)
12月9日(日) 午後2時～3時 定員80名
※往復はがき、またはメール(Eメール:info@shoto-museum.jp)による事前申込、締切は11月26日(月)必着
※干・住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数(2名まで)をご記入のうえ、松濤美術館(150-0046 渋谷区松濤2-14-14) コンサート係まで ※応募多数の場合は抽選
- 【5】 学芸員によるギャラリートーク**
12月14日(金)、12月22日(土)、1月6日(日) 各回午後2時～
- 【6】 金曜の館内建築ツアー**
12月14日(金)、21日(金)、28日(金)、1月4日(金)、11日(金)、18日(金)、25日(金) 各回午後6時～(30分程度)

すべて、要入館料、【4】以外は、事前予約の必要はありません
【1】～【4】地下2階ホールへお越しください 【5】～【6】1階ロビーに集合してください

この展覧会でご紹介する作家

シャルル・コルネリス・ド・ホー ヨハネス・ライシャー リチャード・ウルラン ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ ユベール・ロベール 歌川豊春 百武兼行 アンリ・ルソー 松岡春 藤島武二 澤部清五郎 ジョルジオ・デ・キリコ(工房) 小野竹喬 不染鉄 ボール・デルヴォー ルネ・マグリット

亜吹堂田 善 トマス・ガーティン ジョン・コンスタブル ジョン・セル・コットマン ジョン・リネル アシル・エトナ・ミシャロン ウジェーヌ・イザベイ アントニオ・フォンタネージ 工部美術学校生徒 岡鹿之助 北脇昇 大沢昌助 中尾彰 矢橋六郎 難波田龍起 伊藤久三郎 今井憲一 山口薫 浜田浜雄 樽松正利 池田龍雄 麻田浩 野又 獲 大岩オスカル 元田久治